

# 新任助手紹介



口腔解剖学第二講座

山本 仁

平成11年11月より口腔解剖学第二講座の助手として採用して頂きました。東京生まれの東京育ち、粹で鯔背なチャキチャキの江戸っ子と言いたいところですが、あいにく2代目ですので、野暮で無粋なのはその為かと納得しております。趣味はありきたりで、水泳と読書です。大学時代は水泳部に所属し、それなりにバリバリと泳いでいたのですが、今では水泳から遊泳に変わり、水におよぶよと浮かんでいるだけです。それに伴ってお腹のほうもぶよぶよとなり、何とかしなければと思っております。読書はかなり偏っていて、池波正太郎、遠藤周作のファンです。

東京歯科大学卒業と同時に大学院に進学し（解剖学専攻）、主に歯牙硬組織の超微構造について研究しました。大学院終了後、東京歯科大学に一年半勤務した後、岩手医科大学（歯学部口腔解剖学第二講座）に5年間在職しました。この間、岡山大学（医学部解剖学第一講座）に内地留学させて頂きました。岩手医科大学退職後、開業医勤務を経て、新潟大学に参りました。東京はもちろん、盛岡や岡山で学内外のいろいろな方々とお会いする機会を得たことは私の大きな財産となっています。新潟でも多くの方々と出会うことができればと思っております。

現在解剖学は、形態はもとより免疫学、発生生物学、分子生物学や計量学など、様々な領域から成り立っており、これらの知識や技法抜きには研究の発展はありません。しかし解らないことが多く、試行錯誤の毎日です。幸いなことに教室のス

タッフ、大学院生に恵まれ、また臨床講座の先生方も多数来室され、日々刺激を与えて頂いております。先生方の教室にも専門的な知識や技法を伺いに参ることと存じます。ご指導賜りますよう宜しくお願いいたします。

5年前に現在の状況は全く想像していませんでした。この先5年後、10年後のことは解りませんが、よりhappyで、より一つでも多くの夢が実現しているよう、今を大切にしたいと思えます。

## 【略歴】

- 昭和37年2月 東京都生まれ
- 昭和55年3月 私立独協高校卒
- 昭和57年4月 東京歯科大学入学
- 昭和63年3月 同上卒業
- 昭和63年4月 東京歯科大学大学院歯学研究科入学
- 平成4年10月 同上修了
- 平成4年11月 東京歯科大学研究助手（口腔解剖学第二講座）
- 平成6年4月 岩手医科大学歯学部助手（口腔解剖学第二講座）
- 平成11年4月 医療法人社団正光会小林歯科勤務
- 平成11年11月 新潟大学歯学部助手（口腔解剖学第二講座）



口腔生理学講座

山村 千絵

4年8ヶ月のブランクを経て、再び助手として歯学部に戻って参りました。その間、平成7年3月に長女を出産し、平成9年8月より平成11年8月まで、同じ講座に所属する主人の海外留学に伴い、カナダ、トロント市に在住致しておりました。

トロントでは異文化の中、いろいろと貴重な体験ができ、家族それぞれに成長することができました。

本学には、学生時代を含めるとすでに20年もの間お世話になっており、古巣に戻ってきたような懐かしさがあります。前回在職中は、筋電図を用いた歯根膜顎筋反射の研究に従事し、その成果をまとめあげることができました。顎口腔系にも、咬合や咀嚼時に働く、実に巧妙で合目的な神経制御機構が存在していることを確認でき、驚きと感嘆の念を覚えることができました。

時は流れ、生理学の分野でも日々矢継ぎ早に新しいことが解明されてきています。浦島太郎状態の私にとっては、過去の知識の想起はもとより、新しいことをとりいれるためにも、しばらくはかなりの努力が必要のように思われます。実際にまずは知識の整理をはじめても、また基礎からやりなおすべきことの多さを実感しています。教育、研究には終わりがありません。脳の活性をあげて集中力を駆使し、効率よく多くの課題をこなしていけたらよいのですが…。現実には時間に振り回されている毎日です。元気いっぱいの子供のパワーを少し恵んでもらって、新たなるものにも挑戦する意欲を更に培っていかねばとも思っています。

最後になりましたが、再就職に際し暖かく迎え入れて下さった、口腔生理学講座の皆様のご理解に厚く感謝致しております。

#### 【略歴】

昭和36年 1月	新潟県生まれ
昭和54年 3月	新潟県立長岡高校卒
昭和54年 4月	新潟大学歯学部入学
昭和60年 3月	同上卒業
昭和60年 4月	新潟市関井歯科医院勤務
昭和60年 12月	同上退職
昭和61年 3月	新潟大学歯学部助手（口腔生理学講座）
平成4年 3月	学位取得（博士（歯学））
平成7年 3月	同上退職
平成11年 12月	新潟大学歯学部助手（口腔生理学講座）



#### 歯科補綴学第二講座

#### 藤井規孝

歯科補綴学第二講座の藤井規孝です。簡単な略歴をつけて自己紹介をということで、思い起こしてみると入局してから7年になろうとしています。意外に早いものだなーというのが率直な感想で、それだけの期間大学にいたという実感はいまいち湧いてこないのですが、昨年9月より助手に採用して頂いてからは少しずつ変わって来ているつもりでいます。

出身は石川県です。新潟と同じ日本海の近くで海の幸もおいしいはずなのですが、なぜかそっちの関係はほとんど苦手なため、新潟のいいところも半分くらいしか分かってないかも知れません。今みたいな寒い時期にはきっと鍋料理なんか美味しいんでしょうけど…。

現在は、補綴科外来や総合診療室での診療が中心の生活を送っていますが、大学院時代には第二補綴学講座のテーマの一つである歯科用インプラントに関する研究に取り組み、口腔解剖学第二講座の先生方にもたいへんお世話になりました。どの分野でもそうだと思いますが、歯科用インプラントにもどんどん新しい技術や方法が導入されています。責任の伴う職位に採用されたからには、大学院時代の経験を生かしてこの流れに遅れないように、ではなく引っ張っていけるように努力したいと考えております。また、総合診療室では学生が自分で考えたり、判断するのをうまく手伝えるように心掛けたいと思っていますが、そうするためにも自己研鑽を忘れないようにしたいです。

いろいろと至らない点も出てくるかと思いますが、今後とも宜しくお願い致します。

#### 【略歴】

昭和43年 10月	金沢市生まれ
昭和62年 3月	石川県立金沢桜丘高校卒業
昭和62年 4月	新潟大学歯学部入学
平成5年 3月	同上卒業

平成5年4月 新潟大学大学院歯学研究科入学  
(歯科補綴学第二講座)  
平成9年3月 同上修了  
平成9年10月 新潟大学歯学部附属病院医員 (歯  
科補綴学第二講座)  
平成11年9月 新潟大学歯学部助手 (歯科補綴学  
第二講座)



歯科補綴学第一講座

### 五十嵐 直子

学生の頃、天性の要領の悪さのため、どうしても好きになれなかったのが基礎実習。臨床科目の実習は、総義歯実習から始まったので、私が最初にキライになった臨床系講座は一補綴だったのでした。その私が、一補綴に入局し、この度はこのような職務に就けるといいますから不思議なものです。大学院時代は好き放題にいろいろなことをやらせていただき、周りの方々にさんざん迷惑をおかけしてきましたが、今後はその代わりにお役に立てるよう精進していきたいと思っています。

子供の頃から、よく男の子と間違われたものでした。幼児期の私は、男の子が欲しかった父のせいで、仮面ライダーやアパッチ野球軍のついたシャツを着せられたうえ、頭は坊主だったため、よく「まあかわいい男の子！」と言われたといひます。刈り上げにしていた中高時代には、女子トイレに入ってブーイングされたり、女子高生に「男の子かと思ったのに〜！」と叫ばれたりしたこともあります。そういえば最近、3階の食堂で、女性の友人と二人で中華丼を頼んだら、「中華丼2つ〜、ひとつだけ女性の方です〜」と言われました。そんな私の私的な標語は、「必要以上に髪の毛を切らない」。

よく食べることと、丈夫なことも特徴です。学生の頃から強靱な内臓と体力が自慢でした。病気もしません。風邪が流行っていても、熱も出ませ

ん。〇〇はカゼひきませんし…。「丈夫で長持ち」、これをモットーにがんばりたいと思います。よろしくお願い致します。

### 【略歴】

昭和45年6月 新潟県生まれ  
平成元年3月 新潟県立新潟高等学校卒業  
平成元年4月 新潟大学歯学部入学  
平成7年3月 同上卒業  
平成7年4月 新潟大学歯学部大学院歯学研究科  
入学 (歯科補綴学第一講座)  
平成11年3月 同上修了  
平成11年4月 新潟大学歯学部附属病院医員 (歯  
科補綴学第一講座)  
平成11年8月 新潟大学歯学部助手 (歯科補綴学  
第一講座)



歯科補綴学第二講座

### 佐藤 一夫

平成5年に本学を卒業し、第二補綴科の大学院に入学しました。

口腔解剖学第一講座にてインプラントに関して特に骨粗鬆症と結びついた研究に、約3年関わった後、現在は主に臨床、学生教育に携わっております。

昨年の10月より助手として採用されることとなりましたが当初は特にピンとくることはありませんでした (出張で月の半分は大学を不在にしていたこともあって)。しかし草刈教授より、それ以前から“秋にヨルダンで行われる歯科学会に連れて行ってやるから、英語で話をしてみろ”という事を聞いており、自分で勝手に“助手になったの最初の仕事か、がんばらなければ”と思ったものでした。そこで今回の原稿を依頼された際に、何について書こうか考えましたが、この貴重な体験について少し触れてみようと思い、ワープロに向かった次第です。個人的には好んで海外旅行をするタイプではありませんが、院時代とその後一度ずつ海外の学会に参加させていただきました。留学

生が多数所属する教室の為か幸運にも、同行してくれたため、英語が分からず苦勞する事はあまりありませんでしたが、自分の思っていることを英語で相手に伝える事の難しさを痛感し、改めて英語力の無さに驚きました。また、日本とは文化も風習も異なる国での生活は（ほとんどホテルの中にいましたが）驚きと感動の連続でした。多くの博物館や、それこそ国中を案内してくれたアミン先生には非常に感謝しています。国中みな友達という感じでした。日本に帰る最後の日に、同行した田口講師と死海に浮かんだのもとても印象的な出来事でした。

文章がとりとめなくなりりましたが、いろいろな国との交流を深めることは、これからの歯科会にとっても非常に大切であると思うし、大学に在職することはそういう機会を得やすいのだなあと感じる今日この頃です。こんな私ですがどうぞよろしくお願い致します。

**【略歴】**

昭和43年 5月13日生まれ（中之島町出身）  
 昭和59年 新潟県立長岡高校入学  
 昭和62年 同上卒業  
 昭和62年 新潟大学歯学部入学  
 平成5年 同上卒業  
 平成5年 新潟大学歯学部大学院歯学研究科入学  
 （歯科補綴学第二講座）  
 平成9年 同上卒業  
 平成10年 新潟大学歯学部歯科補綴学第二講座医員



歯科保存学第一講座

**竹中 彰治**

歯科医師となり6年、ここ新潟にきてもう12年が過ぎようとしています。私は本大学を卒業後、歯科保存学第一講座に入局して大学院に進み口腔細菌学でお世話になりました。出身は岐阜県の大垣というところですが、大垣は冬もそんなに寒くなく雪が積もることもほとんどありません。また、

岐阜、名古屋までそれほど時間もかからず、通勤にも便利なせいか住宅街が立ち並ぶようになりました。もう新潟に12年も住んでいると地元よりこちらの方が詳しくなって、週末は自分の庭のようにいろいろな所に出発してはストレス解消をしています。どこかで見かけたときは気軽に声をかけてください。

さて、私は大学院時代は口腔細菌学講座で感染根管治療においてしばしば遭遇する難治化要因を解明するべくその基礎的研究をしておりました。そこで学ばせていただいたことを日々頭に描きながら現在は保存学第一講座の外来にて診療しております。大学院時代が外来を行う時間も少なかったもので、本格的に臨床を始めて実質2年程度ですが、毎日の臨床の中でまだまだ知らないことも多く自分の未熟さを感じながら過ごしています。

これからも細菌学的背景を常に考えながら、当病院のために少しでも貢献できるよう努力したいと思っております。

**【略歴】**

昭和44年 5月 岐阜県生まれ  
 昭和63年 3月 岐阜県立大垣北高校卒業  
 昭和63年 4月 新潟大学歯学部入学  
 平成6年 3月 同上卒業  
 平成6年 4月 新潟大学大学院歯学研究科入学  
 （歯科保存学第一講座）  
 平成10年 3月 同上修了  
 平成10年 4月 新潟大学歯学部附属病院医員（歯科保存学第一講座）  
 平成11年 9月 新潟大学歯学部助手（歯科保存学第一講座）



歯科補綴学第一講座

**金田 恒**

かねだ こうと読みます。

小さい頃から正しく呼ばれたことがないので、自己紹介で一番いいことは読み方くらいです。ほかにお話するようなことはなにもありません。

んが、それではスペースがあまってしまうので、タイトル「I 補綴と私」でお話させていただきます。

それは総診にあがって間もない春でした。先の事なんて全く考えてない時に「卒業したらどうするの？」と某教授に聞かれ、大学院というものに行ってみるかなーとは思っていたので、「そうですねーどうしましょうか、大学院かなあと思ったりするんですけど」と答えたら、「うち来る？」という言葉をいただき、へらへら〜と「入れてもらえるんですかあ？」ウフ♡と和やかなその場の会話のつもりでした返答が、現在の私のきっかけになるとはユメにも思いませんでした。自覚のないまま、周りからの「I 補綴いくんだってね」という言葉に「あ、そうなの!？」と本人が驚きつつ戸惑いつつ「ま、いっか♡」と決めてしまいました。お世話になりますと進路のアイサツに医局長のところへ伺ったときに言われた言葉は今でも忘れません。で、どっち？研修医？大学院なの？と聞かれ「大学院でお願いします」「大学院？ごくろうさん！」（これは一字一句違ってないぞ）。

この意味をかみしめかみしめ4年がすぎました。

…とても楽しかったです。本当です。そして医員となりこのたび助手になりました。受けた御指導に対してお返しできることは、これからの人たちのために不平等をなくすように努めることと思っています。

そろそろスペースがうまったでしょうか。このへんで失礼させていただきます。

#### 【略歴】

昭和45年7月	新潟市生まれ
平成元年3月	新潟明訓高等学校卒業
平成元年4月	新潟大学歯学部入学
平成7年3月	同上卒業
平成7年4月	新潟大学大学院歯学研究科入学 (歯科補綴学第一講座)
平成11年3月	同上修了
平成11年4月	新潟大学歯学部附属病院医員 (歯科補綴学第一講座)
平成11年10月	新潟大学歯学部助手 (歯科補綴学第一講座)